

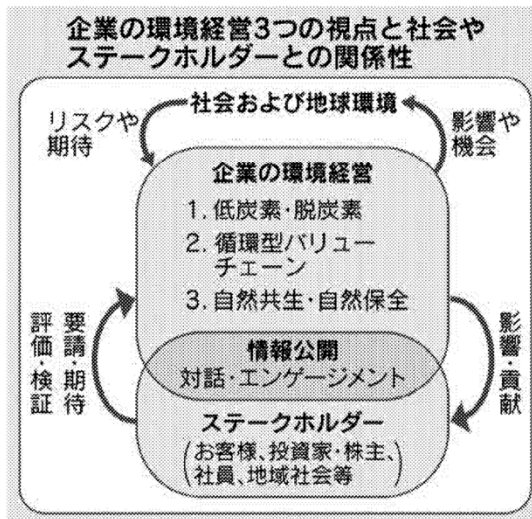
レクチャー

変わる環境経営 ①

SOMPOリスケアマネジメント
部長 福渡 潔氏

世界経済フォーラムの「グローバル・リスク報告書2017」によると、注目すべきグローバルリスクは、①異常気象②自然災害③大規模な移民④テロ⑤サイバー攻撃⑥水資源危機⑦気候変動対応——となっている。7つのうち環境リスクが4つを占めている。15年12月12日に国連気候変動枠組み条約締約国会議で採択されたパリ協定では、地球の平均気温上昇を2度より十分低く保つとともに1.5度に抑制する長期目標を設定し、管理することが明記されている。具体的には、温暖化ガス排出量を50年までに10年比で40%削減し、2100年には排出量水準がほぼゼロまたはそれ以下となることを目指し、さらに、

注目のグローバルリスク



気候変動への適応策も規定されている。企業では、事業活動で活用している自然や生物多様性を金銭的な価値として評価する「自然資本」の概念が広がっている。また、自然資源を循環させ持続可能な消費となるよう、企業の努力が求められている。

さらに近年では「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）や、コーポレートガバナンス・コード（企業統治指針）が公表された。これらには、機関投資家が投資先企業の中長期的な価値向上を見極めるための着眼点として、投資先企業のカバナンズ（G）を中心に、社会（S）や環境問題（E）の項目が含まれ

ている。世界最大の年金資産を持つ年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が、新しい国内株式運用の指標としてこれらを活用し「ESG指数」を選定することになっている。今後、環境経営戦略について、株主や機関投資家と企業との双方向の対話の重要性が増す流れである。

社会や地球環境の状況を適切に評価し、短期および中長期の目標と重要な業績指標を経営計画に統合し、社会や地球環境のリスクと機会をステークホルダーとの双方向の対話から適切に捉えることが求められる。



ふくわたり・きよし 損害保険のほかに、16年間にわたり社会的責任投資やCSRマネジメントに携わる。現在、CSR・環境事業部を統括。

マネジメントに携わる。現在、CSR・環境事業部を統括。

2017年6月14日
日経産業新聞